



# 日本物理学会 ダイバーシティ推進委員会 活動報告

## Recent activities of Diversity, Equity, & Inclusion (DEI) Committee, The Physical Society of Japan

小林 夏野<sup>1,2</sup> 濱口 幸一<sup>1,3</sup> 齊藤 準<sup>1,4</sup> 所 裕子<sup>1,5</sup> 成木 恵<sup>1,6</sup>

日本物理学会<sup>1</sup>、岡山大学異分野基礎科学研究所<sup>2</sup>、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻<sup>3</sup>、  
帯広畜産大学農学情報基盤センター<sup>4</sup>、筑波大学大学院数理物質科学研究群<sup>5</sup>、京都大学理学研究科<sup>6</sup>

### ◆日本物理学会のダイバーシティ推進委員会◆

日本物理学会は1877年に創立された会員数が約15000人の学会である。本学会の女性比率は増加し続けているものの、現在も6~7%程度であり、これは世界的に見ても小さな数字である。2002年に発足したダイバーシティ推進委員会では、今後さらに多くの女性研究者が男性研究者と共に活躍し、物理学がますます発展するよう様々な活動を行なっている。以下に、この1年間の主な活動内容を報告する。

### ◆基本方針◆

①女性研究者の研究・教育環境を改善する事、②女性研究者を含めた次世代人材を育成する事を指針に、国内外の機関と連携して活動を行う。

### ◆活動報告◆

#### 【1】米沢富美子記念賞 第4回受賞者決定

物理学会では女性会員の活躍を讃え、奨励するために2019年度に米沢富美子記念賞を設立し、毎年受賞者を選考し、物理学会年次大会において表彰している。2023年度にはその第4回募集を行い、3名の女性会員に賞を授与した。

#### 【2】次世代教育支援

2005年度より「女子中高生夏の学校」に本学会員を実行委員会およびプログラム担当委員として派遣している。2023年度は4年ぶりの対面開催となり、全国29都道府県から98名の参加があった。本委員会の担当委員が中心となり、38の協力団体からの支援を得て実習・実験やポスター展示を行った。また、2006年度より継続的に「女子中高生のための関西科学塾」の支援をしている。2010年度から協賛金の形で支援をしてきたが、2021年度からは賛助会員として協賛し、2022年3月にはブース参加した。2023年度も現時点で7月29日のA日程が開催済みである。



#### 【3】学協会連絡会活動

学協会連絡会運営委員会、大規模アンケート解析WG、シンポジウムに参加している。

#### 【4】国際交流

本委員会の活動内容を International Conference on Women in Physics (2023年7月10-14日) にて発表した。The 2023 Fall Meeting of the Division of Nuclear Physics of the American Physical Society and the Physical Society of Japan(2023年11-12月)でも発表予定である。また、AAPPS Women in Physics WGへの本委員会委員の派遣 (Chair & Vice Chair) 等を行っている。

#### 【5】秋季・年次大会での託児室の開設

物理学会では、毎年春と秋に全国規模の学術講演会を開催しており、どちらの大会も合計約5,000名の研究者が参加している。大会には本委員会が主体となって運営している託児室が設置され、事前に申し込んで希望すれば誰でも利用できる。託児室の終了後は、利用者に運営向上のためのアンケートを実施し、その内容を委員会内で共有することで、より一層の利便性の向上を目指している。

#### 【6】年次大会でのシンポジウム開催

日本物理学会にて、本委員会主催のインフォーマルミーティング (ランチョンミーティング) を開催してきた。2023年春季大会ではオンラインのランチョンミーティングを開催し、年次大会では理事会企画インフォーマルミーティングに協力した。また、2023年冬には、原子核分野における米国物理学会との合同学会において特にDEIBに特化した招待講演セッションを設け、本会の活動の紹介や意見交換を行う予定である。

#### 【7】広報活動

物理学会誌とHP(<http://danjo.jps.or.jp/>)に委員会報告やイベントごとに活動報告を掲載している